

東京大学史料編纂所

しりょうへんさんじょ
史料編纂所は、日本前近代(古代～明治維新)史料の編纂を中心事業とする、歴史学の研究所です。その淵源は、1793年に国学者塙保己一(はなわ・ほきいち)が江戸幕府の援助を受けて開設した、和学講談所にさかのぼります。【史料編纂】の基礎となる史料調査・収集は、1885(明治18)年から本格的に始まり、その蓄積の上に1901(明治34)年から史料集の刊行が開始されました。以後100年余りの活動のなかで、『大日本史料』・『大日本古文書』・『大日本古記録』・『大日本近世史料』・『日本関係海外史料』・『花押かがみ』などの書目名で刊行された基幹的史料集は総計1000冊を超え、国内外の日本史研究者に活用されています。

特別公開 らくちゅうらくがいず 黄金に輝く「洛中洛外図屏風」

「洛中洛外図屏風」をご覧になったことがあるでしょうか？ 史料編纂所では、戦国時代の京都の景観が描かれた貴重な屏風を対象に、江戸時代に写された摸本をもとにして、復元模写を制作しています。今回は、東京国立博物館での特別展示以来ひさびさの特別公開の機会にあわせて、絵画史料研究の世界をご紹介します。

【開催日時】：8月4日(水) 10:00～17:00

【開催場所】：史料編纂所 1階(展示ホール)

※事前申込等は不要です。ご自由にご覧ください。



「洛中洛外図屏風」復元模写 (史料編纂所蔵)